

この広報誌は「梅が丘地区連合会」が発行する
活動報告を主とした、町内会に所属する会員向けの冊子です。

うめがおか

UMEGAOKA

vol.40

令和7年5月1日

特集

手話で広がるつながり みんなで築くやさしい社会

年間行事レポート

梅が丘小だより

時を超えて繋がる想い ～20年後の再会～

市民憲章ほう賞 地区功績賞

梅が丘連合会は見和市民センターを拠点に、
地域社会の振興・発展を図ることを
目的とした団体です。



手話で広がる
つながり

みんなで築くやさしい社会

ご存知ですか？ 水戸市手話言語条例

2019年4月「水戸市手話言語その他の意思疎通手段の利用促進に関する条例」が施行されました。

手話言語は、手指や体の動き・表情など視覚を使って会話をする「ひとつの言語」であり、人が声を出して会話をする日本語や英語と同じです。英語では「Sign language」と言います。「きこえない・きこえない」人にかぎらず、手話言語に興味をもち、日常生活のなかで使えるようになれば、コミュニケーションの輪は大きく広がります。

この条例によって可能になる行政サービスの具体的な例を挙げてみます。たとえば障害の有無に関わらず手話言語を学べる機会を確保したり、「きこえない・きこえない」人が医療機関の受診を必要とする際や、就職面接の際などに手話通訳を派遣したり…。さらには、災害など手話を用いた情報発信を推進できるようになります。東日本大震災の際には、防災スピーカーから流れる食料配給に気付かず、苦勞された方が多くいらつしたと聞いています。

さて、私たち区民には何ができるでしょう。目の前に困っている外国人がいたらどうされますか？ 会話ができれば、ボディランゲージや筆談、携帯電話を使うのもいいでしょう。「きこえない・きこえない」一人に対しても同じです。支え合い活動ができるまちづくりをしてきた私たち区民であれば、障害の有無にかかわらず「一人ひとりがお互いに理解しあい、尊重しあうことができる共生社会を実現できるはず」です。

今年秋にはパリンピックよりも歴史のある耳のきこえないアスリートを対象とした国際的な総合スポーツ大会「東京2025デフリンピック」が開催されます。この機会に社会の多様性を改めて意識し、日々の暮らしの「コミュニケーション」を見直してみたいかがでしょうか。

●デフリンピックとは？

デフ+オリンピックのごと。デフ(Deaf)とは、英語で「耳がきこえない」という意味です。日本では初めて、また、1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから100周年となる歴史に残る大会が、2025年に東京を主な会場として21競技が繰り広げられます。

【開催日程】2025年11月15日～26日



きこえの架け橋



手話通訳士
手話サークル
「水戸手話を学ぶ会」(会員)
川畑さん(梅が丘地区在住)

今回は、地域にお住まいのきこえない方ときこえる方をつなぐ大切なコミュニケーションについてお話を聞きました。インタビュを通じて、手話がもたらすつながりや、共生社会への思いについて深く考える機会となりました。本記事を通じて、手話の素晴らしさを皆さまにお届けできれば幸いです。

●日本語手話との出会い

きこえる方々が日本語手話と出会うきっかけは多岐にわたります。言語そのものに興味があった人、幼少期から家業できこえない人と接する機会があった人、友人にきこえない方がいた人、突発性難聴を経験した人、テレビドラマの影響を受けた人など、背景はさまざまです。手話は「特別なもの」ではなく、日常の中で自然に触れる機会がある言語なのです。

●条例施行後も残る課題

水戸市では手話言語条例が施行されてから6年が経ちましたが、認識の甘さが依然として残っていると感じる方が多いようです。例えば、市内のNPO法人やボランティア団体が主催するイベントでは、きこえない方々も多く参加しているにもかかわらず、来賓挨拶時の手話通訳が導入されたのは今年になってからでした。条例の施行だけでは十分ではなく、手話通訳者の不足や、きこえない人の文化に対する理解の不足も課題となっています。きこえる

人ときこえない人の間には、まだ大きな壁があるのが現状です。

●見えない「きこえ」の世界

きこえない、またはきこえない人、見た目だけでは分かりません。必要な配慮を示すための「ヘルプマーク」を身につけることもできますが、普段はあまり使わない方が多いようです。そのため、きこえる人が話しかけた際に相手がきこえないと分かると、戸惑いから立ち去ってしまうケースがほとんどだといいます。



梅が丘地区在住
小田さん

●心を繋ぐコミュニケーション

きこえない人と接する際、どうすればよいのでしょうか？ 小学生のときに中途難聴になった方は、筆談や空書(空間に指で文字を書く方法)、ジェスチャーを使って友人と会話していたそうです。「街中で外国人に話しかけられると逃げてしまう人が多いのと同じように、きこえない人と接するときも怖がつてしまうことがある」とのこと。しかし、重要なのは「何度でも伝えようとする姿勢」です。伝えたいことがあれば、筆談でもジェスチャーでも、相手が理解するまで繰り返し伝えようとすることが大切なのです。

●デフリンピックの見どころ

デフリンピックはオリンピックとほぼ同じルールで競技が行われますが、参加選手は全員補聴器を外して挑みます。これは、きこえの差をなくし、公平な環境で競技を行うためです。そのため、きこえない選手ならではの工夫が随所に見られます。

たとえば、バレーボールでは、きこえる選手がスパイクのコースを「音」で判断するのに対し、きこえない選手は「目」を最大限に活用します。ボールの動きを見

ぜひ一度見学に
きてください!

ボランティアサークル 水戸手話を学ぶ会

初心者から経験者まで幅広いレベルに合わせて楽しく学ぶことができます。

【問い合わせ】

水戸市福祉ボランティア会館

(赤塚ミオス)

TEL 029-309-1011

【活動日】

毎週火曜日 19:00～20:45

極め、手を大きく振って意思表示をすることで、独自の連携方法を編み出しています。また、アイコンタクトやサインを駆使し、まるで「第六感」が研ぎ澄まされたかのようなプレーが展開されます。さらに、陸上競技ではスタートの合図、サッカーでは審判の判定の伝え方など、デフスポーツならではの工夫が見どころです。東京で開催されるデフリンピックを通じて、多くの人が「きこえない世界」を知るきっかけとなり、手話言語の認知度向上にもつながることが期待されています。



7月

交流スポーツ大会



お父さんソフト

日吉祇園祭



緑化運動



8月

MM祭り



10月

市民運動会



1月

三世代芸能発表会



令和6年度 梅が丘地区
ふれあい水戸郷土かるた大会



ふれあい水戸郷土
かるた大会

梅が丘地区連合会では、
地域活動に参加していただける方を
募集しています！

地域を元気にするために、あなたの力を貸し
てくれませんか？みんなで力を合わせて、梅が
丘をもっと素敵な場所にしていきましょう！

詳細は見和市民センターまで！

2月



高信幸男さんの
「名字の謎を解く！名字の歴史と由来」

ふれあい祭り



ふれあい研修



11月

3月

防災訓練



梅が丘小だより



生徒一人一台の学習端末は
当たり前時代に・・・

梅が丘小学校 校長

木野内 喜久恵

だれもが様々なNWサービスを気軽に利用できるようになりました。子どもたち一人一人が端末を使って情報のやり取りができるようになり、学校の学習形態が急激に変わりました。興味をもったこと、疑問に思ったことは気軽に検索し、すぐに学習に活かしていく子どもたちの情報活用能力には、目を見張るものがあります。だからこそ「学校ならではの学びとは?」「学校だからこそできることは?」を改めて考えています。

先日、子どもたちにアンケートを実施しました。思いやりの気持ちや感謝の気持ちを大切にしたいという回答が多かった中、自分の気持ちや考えを相手に伝えることや読書することを大切に思っている子どもが、やや少なかったことが気になりました。自分の考えや気持ちを

伝えることは、人と関わりながら生きていくためには大切なことです。既存の情報や端末という媒体に頼ることなく、自分の考えを友達と語り合う時間を十分に確保する必要があると感じました。

さらに、ひとり相撲にならないように、伝える相手を意識した発信の仕方を学ぶことも大切であると考えています。

また、疑問が即解決できる時代だからこそ、五感を使った体験活動や、様々な立場の方々との交流を通した、実感を伴った学びも大切にしていきたいと考えています。

令和7年11月22日。梅が丘小は創立50周年を迎えます。地域の方々に愛されて大切にいただいたことに感謝し、地域と共に歩む学校を目指すとともに、学校ならではの学びを追究し、「もっとこんなことしてみたい!」というワクワクが生まれる学校になるよう、さらに努力していきます。



時を超えて繋がる想い ～20年後の再会～

2025年11月11日、梅が丘は創立50周年を迎えます。

30周年記念で埋設されたタイムカプセルが今年開封されるにあたり、当時の実行委員長・高安さん(梅が丘地区在住)に、当時の想いやエピソードを伺いました。



今回の寄稿を機に、当時の記録を振り返り、懐かしい思い出が蘇りました。

タイムカプセル事業のきっかけは、2004年度にPTA活動に携わった際、梅が丘地区連合会の木下敬久会長より、創立50周年(1980年)にタイムカプセルを埋めたとお話を伺ったことでした。本当に埋まっているのか、どのようなものが入っているのかと期待が膨らみ、翌2005年の創立30周年記念事業で掘り起こし、開封することになりました。

このタイムカプセル事業は、1980年の過去から2005年の現在、そして2025年の未来へとつながる大きな記念事業です。当時の

児童たちは、自分や友人、家族、先生へ向けて手紙や絵、宝物などをカプセルに収めました。PTAの私たちも、子どもたちへの手紙を入れた記憶があります。いよいよ開封の時が近づき、何を入れたのか思い出せませんが、その瞬間が楽しみです。

また、このタイムカプセルが、旧友や先生との再会のきっかけになれば嬉しく思います。さらに、30周年記念事業として「孔雀小屋の屋根修理と風見鶏設置」「植樹」「ふくろう石碑設置」「航空撮影記念ファイル配布」「芸術家による絵画制作と授業」「記念誌発行」など、多くの活動を行いました。この事業には当時のPTA会長、岡山さんをはじめ、多くの皆様のご協力をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

20年が経過した今もなお、「全ては子どもたちのために」という思いで取り組んだことを誇りに思います。これからも子どもたちの未来を考え、地域とともに歩んでいきたいと願っています。

創立50周年記念式典には、学校関係者・全児童・保護者が参加予定です。また、タイムカプセルの掘り出しは、令和7年11月頃を予定しています。詳細は学校ホームページ等で告知する予定です。たくさんの思い出の人と共有できる貴重な機会です。当時の在校生・関係者の皆様、梅小のホームページをご確認ください。

梅小ホームページ ▶ <https://www.magokoro.ed.jp>

市民憲章ほう賞・地区功績賞

緑川 博子 さん

見和第1町内会

信木 節子 さん

姫子2丁目西町内会

お二人は、このたび、令和6年度永年勤続町内会長・自治会長ほう賞を受賞されました。長きに渡り町内会町として尽力され、まちづくりの推進に大きく貢献され、住民の安心、安全のまちづくりの推進に大きく貢献されました。おめでとうございます。

今号の モデルさん ご紹介



今回表紙撮影にご協力いただいた、杏香さん(梅が丘地区在住)。小学校の先生を目指して教育を学んでいます。大学やアルバイト先で日本語手話の重要性を実感し、学ぶ必要性を感じています。

編集後記

今回の特集では「きこえない・きこえにくい」方々に注目しました。音の届かない世界に目を向け、できることを考えるきっかけになれば幸いです。

発行：梅が丘地区連合会
見和市民センター内/029-253-1273